

ニホンカワネズミ

Chimarrogale platycephala platycephala

(Temminck, 1842)の生息確認

村田 満・田中 美希
藤井 康平・田中 美伶

「山口県の自然」第77号（2017年3月）別刷

山 口 県 立 山 口 博 物 館

ニホンカワネズミ *Chimarrogale platycephala platycephala* (Temminck, 1842)の生息確認

村田 満¹⁾・田中 美希²⁾・藤井 康平³⁾・田中 美伶⁴⁾

カワネズミ(カワネズミ属 *Chimarrogale Anderson*)は、ヒマラヤ、ビルマ、インドシナ、中国中部、台湾そして日本に分布するジネズミの仲間である。国内のものを亜種(ニホンカワネズミ)として区別している。基産地は九州であり、本州・四国に広く分布すると言われているが、山間渓流域の水域から陸への移行帯が生息地であるため、セメント製の護岸工事によって生息地が失われ点的な分布状況と推察される。そのため現在では全国的にもまとまった個体群はみあたらない。本県でも錦川、佐波川、厚東川、阿武川水系の上流部にて目撃情報があるものの、学術的な捕獲例(阿部2003、表3)が1件みられるのみで、県内の博物館や研究機関には標本や記録さえみられない。

筆者らは、2016年4月5日(火)~6日(水)にかけて、学術研究(山口県レッドリスト改訂に係る野生動植物生息状況調査)の目的でオオサンショウウオの捕獲トラップを設置していたところ、本種2頭を捕獲することができた(図1)。外部形態の計測後、仮剥製と頭骨標本、内臓はエタノール液浸にて保管した。貴重なデータが得られたので報告する。

なお本種の捕獲は、第9条第1項の規定(鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律)に従い、「カワネズミの捕獲許可」を申請し許可を受けたことを申し添える。



図1 捕獲したニホンカワネズミ2個体

【捕獲場所の環境条件】

位置：調査地点の羽高川は、佐波川の支流三谷川の二次支流にあたり、水量から「三谷川の源流」と言われている。捕獲地点の川幅は、約3~5m、標高450mの小さな淵で、トラップ(スプリングカゴ KG105直径30cm×長さ90cm)がかろうじて水没する水深である(図2)。

水質：河川形態の分類(可児1944)に従えばAa型にあたる本地点は、水温9.6℃、溶存酸素3.0mg/Lで

1) MURATA, Mitsuru 防府市自由ヶ丘一丁目14-2(高川学園中学高等学校 教員)

2) TANAKA, Miki 防府市自由ヶ丘二丁目11-6(高川学園中学高等学校 教員)

3) FUJII, Kouhei (高川学園高等学校2年 科学部員)

4) TANAKA, Mirei (高川学園中学校1年 科学部員)

透明度が高く、本種の生息地として最適な環境要因（阿部2003）と考えられる（表1）。

植生：成長したスギ植林地のため適度な日差しがあり、エゴ等の低木層が豊かで夏緑樹林帯下部の老齢植林地と言える。溪流には水量が豊富で半水没岩にはミズゴケsp.が生えており、急激な増水などが発生しない保水力の豊かな森林と言える。

魚類：小規模な淵と瀬が階段状に連続するため、アマゴやタカハヤに適した水系であり、サワガニの生息も確認した。この水棲動物が本種の被食者と考えられる（図3）。

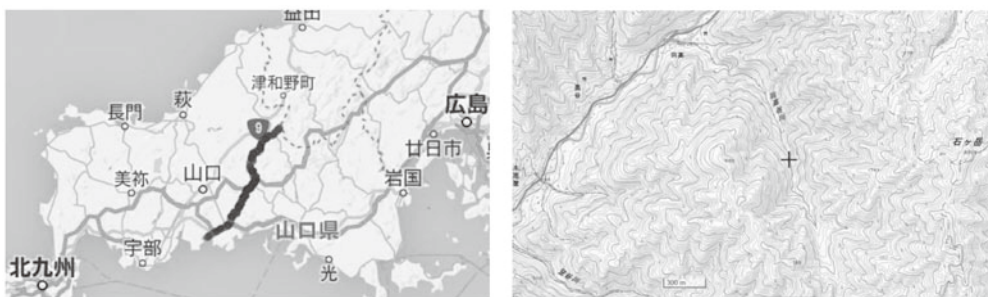


図2 調査地点の位置図

表1 捕獲地点の環境データ（川タイプ／阿部2003より）

河川形態	Aa型	1蛇行区間に多くの瀬と淵があり、瀬が滝状に淵に落ち込む。				
河川環境	植生	天候	気温	水温	溶存酸素	時間
	スギ植林地	晴	10.1℃	9.6℃	3.0mg/L	9時10分



図3 捕獲地点の環境と同一トラップで捕獲した水棲動物

【外部形態と解剖結果】

標本：外部形態を計測後、個体の食性や繁殖期を調べるため開腹し検査後は結紮した。また、頭部は骨格標本とし、本体は仮剥製、内臓を含む本体はエタノール液浸にて保管した（表2）。

検証：表4（今泉1970）と比較し、2個体を考察した。♀個体では乳頭の一部が確認できたが妊娠や授乳の兆候はない。♂個体の精巣は肥大状態ではない。これより2個体は若い成体で、捕獲した4

表2-1 外部形態(計測値mm)

個体番号	16040601	16040602
T.L.	229.0mm	199.0mm
T.	110.0mm	88.5mm
(P.)HFcu	27.50mm	25.75mm
HFsu	26.40mm	24.80mm
Width	9.90mm	6.10mm
(M.)HFcu	17.70mm	16.30mm
HFsu	16.30mm	15.00mm
Width	7.20mm	8.10mm
Ear	6.6mm	5.4mm
Sex	♂	♀
Test	7.70×4.70mm	—
Uter	—	無し
Embr	—	無し
Mamm	—	0+0+2=4
Weig.	55.5g	40.5g
Molt.	—	—

表2-2 尾率%、頭骨・下顎全長

個体番号	16040601	16040602
H.B.	119.0mm	110.5mm
T.	110.0mm	88.5mm
T%	92.44%	80.09%
GLS	14.2mm	13.6mm
Mand.	8.8mm	8.6mm

月上旬は繁殖期前のペアーリング期であることが推測される。耳長・尾率%、頭骨全長において、既存値との差が大きい。山口県の個体群における変異の可能性も考えられる。今後の標本数の確保が重要と考えられる。

表3 文献：阿部2003 p65

付表. カワネズミ採集地の環境データおよび捕獲数一覧(続き)											
番号	地名	環境省 コード	水系・支流	標高 m	川タイプ	岩量	植 物 カバー	倒木	岸洗掘	ダム等	no/TN
50	山口・鹿野町	5131-3639	錦川・渋川上流	540	Aa	多	良				1/12
	山口・鹿野町	5131-3639	錦川・渋川上流	550	Aa	多	良				0/8
50	山口・鹿野町	5131-3649	錦川・渋川上流	600	Aa	多	良				2/14

表4 ニホンカワネズミ *C. p. platycephata* (Temminck.1842) / 今泉1970

	N	HB	T	T%	HF su	E	N	Wt.gr	N	GLS	N	Mand.
<i>C.p.platycephata</i> Nagano Pref., Honshu	6	117.9±3.9 108.4~133.0	99.7±2.5 93.6~105.7	85.1±3.7 76.1~94.0	25.3±0.2 24.7~25.8	7.2±0.4 6.4~8.0	1	30+	5	26.8±0.3 26.1~27.6	7	15.5±0.1 15.2~15.8
<i>C.p.p.</i> Kanagawa & Tochigi Pref., Honshu	5	117.1±1.0 114.9~119.3	104.5±2.1 99.7~109.3	89.3±1.9 85.0~93.6	26.6±0.5 25.4~27.8	7.9±0.3 7.3~8.6	1	32.5+	4	27.1±0.2 26.7~27.6	5	15.7±0.1 15.5~16.0
<i>C.p.p.</i> Tohoku Dist., Honshu	6	119.8±5.4 106.5~133.0	107.8±1.9 103.0~112.5	91.0±3.9 81.4~100.6	26.4±0.5 25.4~27.4	8.1±0.4 7.2~9.0	—	—	4	27.8±0.4 26.9~28.6	6	16.0±0.2 15.5~16.5

参考文献

- 今泉吉典 (1970) 日本哺乳動物図鑑・上巻. 株式会社新思潮社
- 阿部 永 (2003) カワネズミの捕獲、生息環境および活動. 哺乳類科学 43(1): 51-65.
- 阿部 永 (2011) カワネズミ *Chimarrogale platycephala* の胃内容物. 哺乳類科学 51(2): 311-313.